

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場東小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。また、次年度は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を研究のテーマとし、さらなる基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、R6年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	話し手の伝えたいことや自分の聞きたいことを中心に、自分の考えをもつことに課題が見られたため、国語の授業中だけでなく、学級の話合い活動などを通して伝えたいことや聞きたいことを中心に捉える活動の充実を図る。また、各教科の授業で、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどちらの学年も平均92%以上を維持し、1年生から4年生においても、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。また、高学年の「読書の習慣」の肯定的割合を向上させる手立てが必要である。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の知識・技能に関わる領域において、R4年度の自校の結果より1pt向上させる。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」などを活用し、繰り返し問題に取り組むことで、基礎学力を確実に身に付ける指導を行う。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語において「思考・判断・表現」を昨年度の自校結果より1pt上げる。	⇒ 国語の人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題に課題があるため、読む活動などを通して具体的に想像する時間を意図的につくる。また、読書の習慣を身に付けさせるため、多くの本と触れ合う時間を設ける。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答で95%以上を目指す。	⇒ 授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が問題を見いだしたりして、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	さいたま市学習状況調査では、R5年度「知識・技能」とR4年度「知識・技能」との偏差値の比較においては、±0ptという結果になった。 偏差値 R5 3年:50、4年:53、5年:50、6年:55 R4 3年:51、4年:51、5年:54、6年:52	A
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査では、R5年度「思考・判断・表現」とR4年度「思考・判断・表現」との偏差値の比較において+1ptとう結果になった。 偏差値 R5 3年:51、4年:53、5年:51、6年:53 R4 3年:51、4年:51、5年:54、6年:50	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答で95%以上の目標に対し、5年:91.7%、6年:92.8%と学校平均で92.25%という結果となった。R4年度は、5年:94.4%、6年:93.5%で学校平均93.95%だった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+3pt、算数+9ptで大幅なポイントアップとなった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+6pt、算数+10ptで大幅なポイントアップとなった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答は98%となり目標を達成した。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-1pt、算数-1ptであった。国語の我が国の言語文化に関する事項の問題において課題が見られた。算数では、図形の問題において課題が見られた。教科への興味関心については、国語は、肯定的な回答の割合が80%と高い傾向が見られた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+2pt、算数+3ptであった。国語においては、目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる事項の問題に課題がみられた。教科の興味関心については、国語は肯定的な回答の割合が約87%と高い割合に、算数は、68%という傾向が見られた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-4pt、算数-2ptであった。国語では話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に、自分の考えをもつことができる事項に課題がある。生活習慣に関する、「読書の習慣」において、本を読んだり借ったりするために、図書館に行くの肯定的回答が2割に満たないという傾向が見られた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+3pt、算数+5ptであった。また、国語の同集団経年比較において、学習指導要領の領域[読むこと]が、-3ptという結果が見られた。生活習慣に関する、「読書の習慣」において、本を読んだり、借ったりするために、図書館に行くの肯定的回答が1割という非常に低い傾向がみられた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	算数の「図形」の領域において、面積を求める公式を覚える学習にとどまらず、その特徴を考えたり説明したりする活動を重視する。	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、算数の「図形」の領域に課題がみられたため、面積を求める公式を覚えるだけでなく、特徴を考えたり説明したりする活動を多く設定する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし